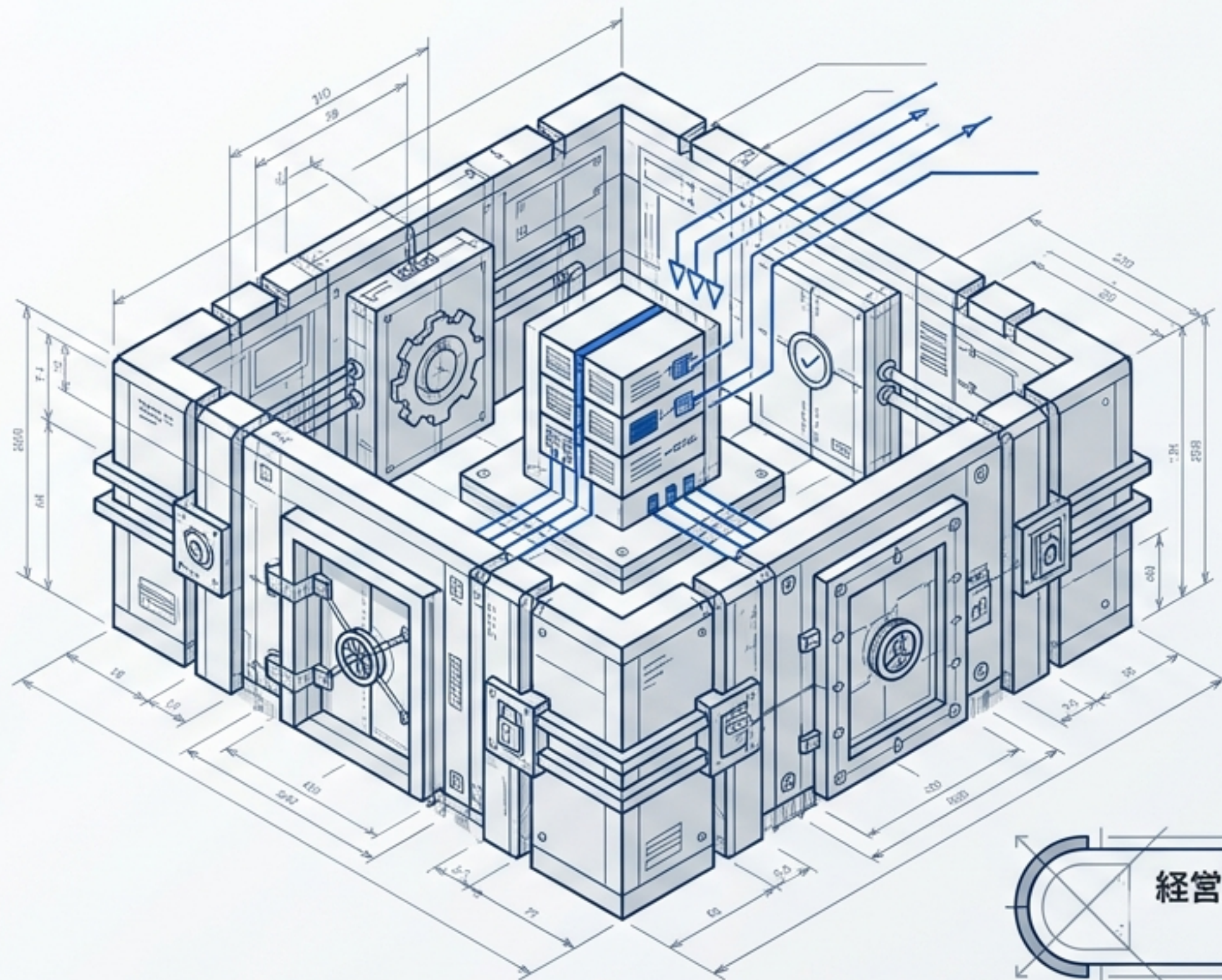


信頼のアーキテクチャ：2027年の知財部門に向けた生成AI戦略

効率性から検証・統制の時代へ — 「使うか否か」ではなく「どう検証するか」

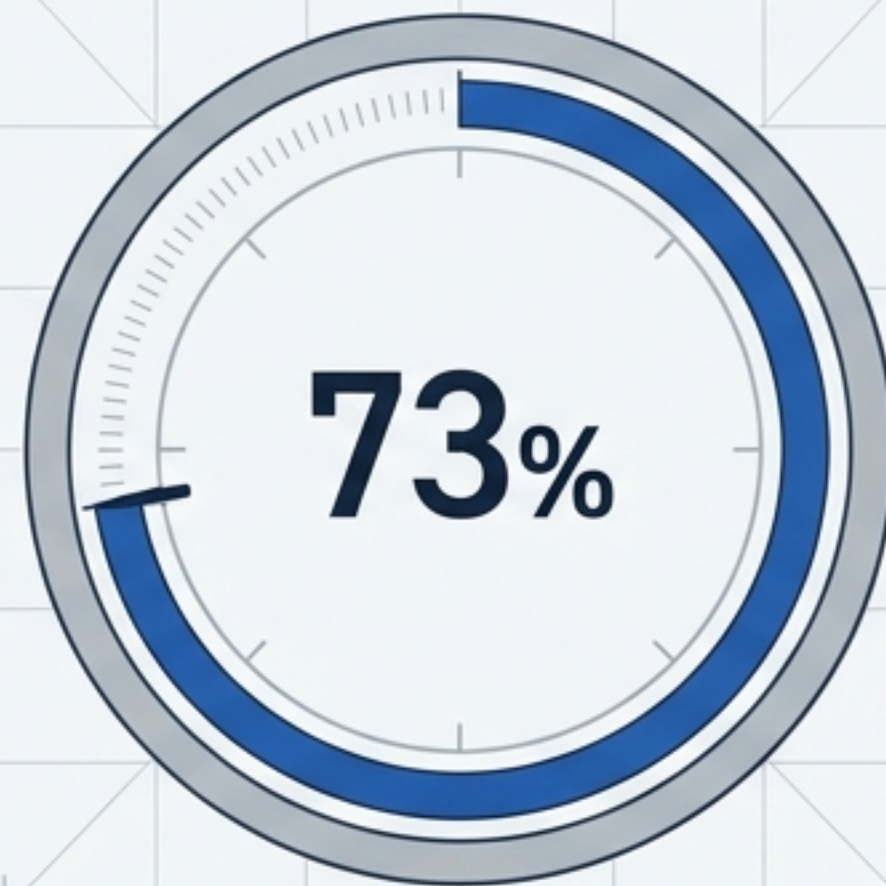


経営層・知財部門・情報システム部門
向け報告書

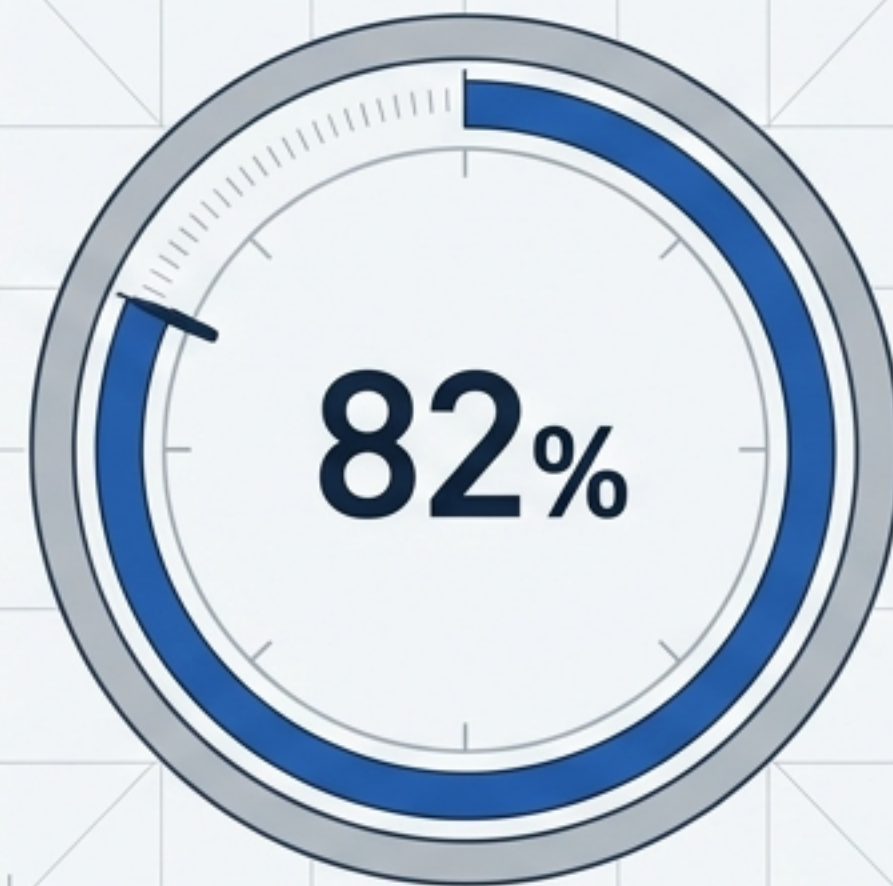
生成AIは「機能」から「業務設計設計の前提」へ



知財・情報フェア2026出展者のうち、
AIを前面に掲げた割合



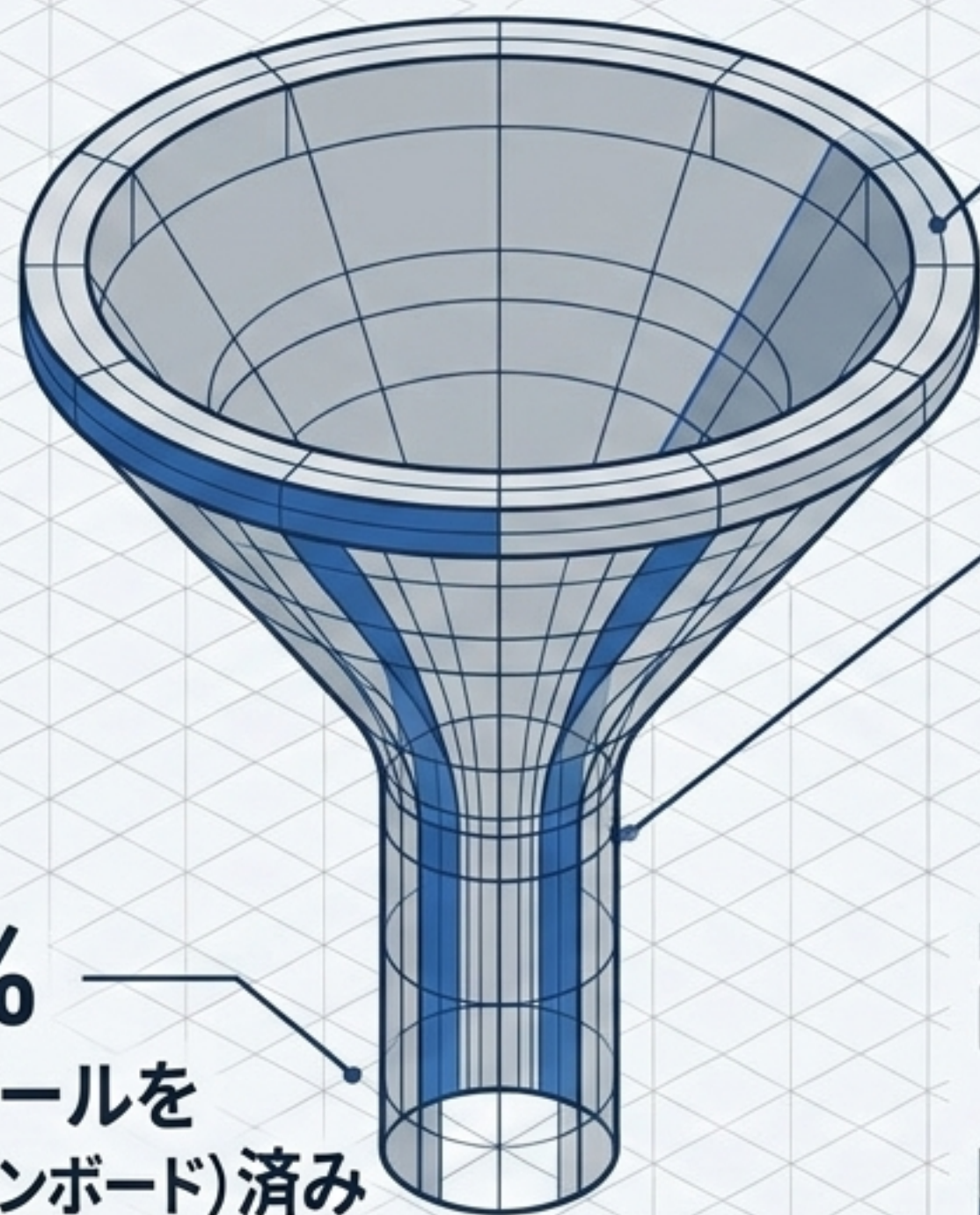
AIが知財専門職の役割を
「恒久的に変える」と回答した割合



2026年中にAI利用を
「拡大する」と回答した割合

市場におけるAIの訴求領域は、単なる検索支援を越え、
発明発掘、明細書作成、FTO調査など「知財業務全域」へ到達している。

意欲と現場の乖離：生産性のボトルネック



82%
AI利用拡大の意向

88%
AI成果物の「レビュー・検証」に
業務時間の最大半分を費やす

26%
全てのAIツールを
フル稼働(オンボード)済み

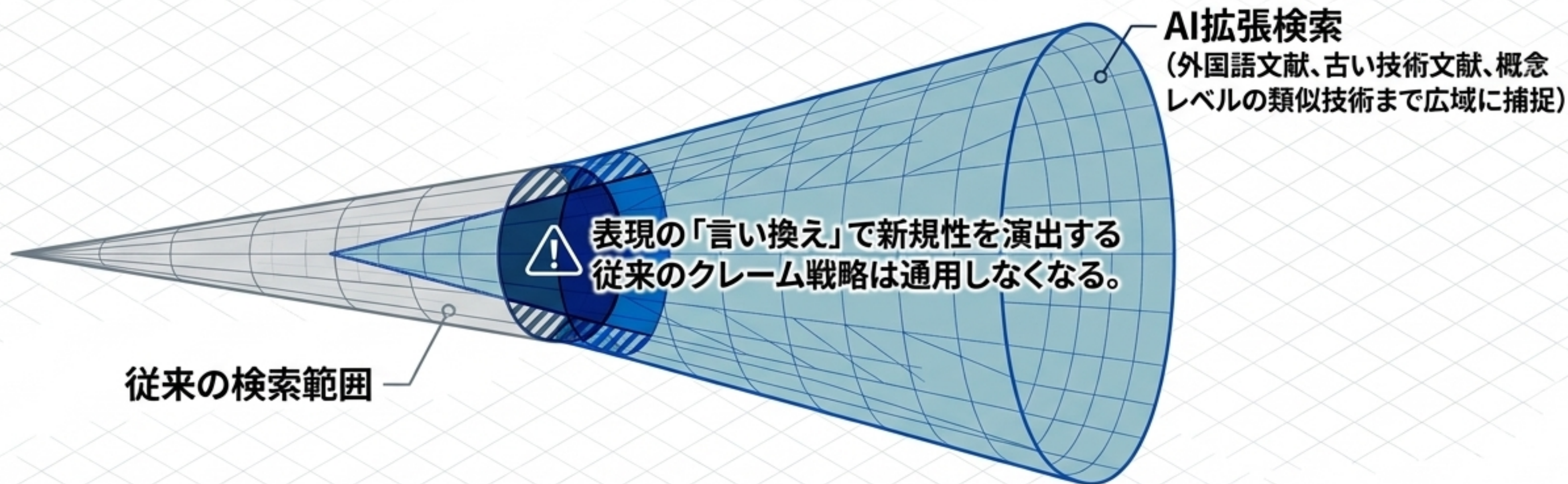
「人の中心業務はすでに「自ら作る」から
「検証・監督する」へ移行している。」

5大特許庁のAIスタンス：「審査の厳格化」と「人間中心原則」

特許庁	AIスタンス・ビジョン	実装ツール・施策
JPO (日本)	JPO AI ビジョン (2026/7) - 人間中心のハイブリッド審査。	GAIA-IndexによるFターム形式検索の 試行、先行技術調査の網羅性向上。
USPTO (米国)	「発明者は自然人のみ」へ回帰 (Pannu枠組み)。AIはツール。	SimSearch全面運用、事前自動調査 (ASAP!)、意匠(DesignVision)。
EPO (欧州)	AIを補助から「中核機能」へ格上 げ。審査一貫性の強化。	新ツール「Drafter」、Mistral AIの OCR採用。

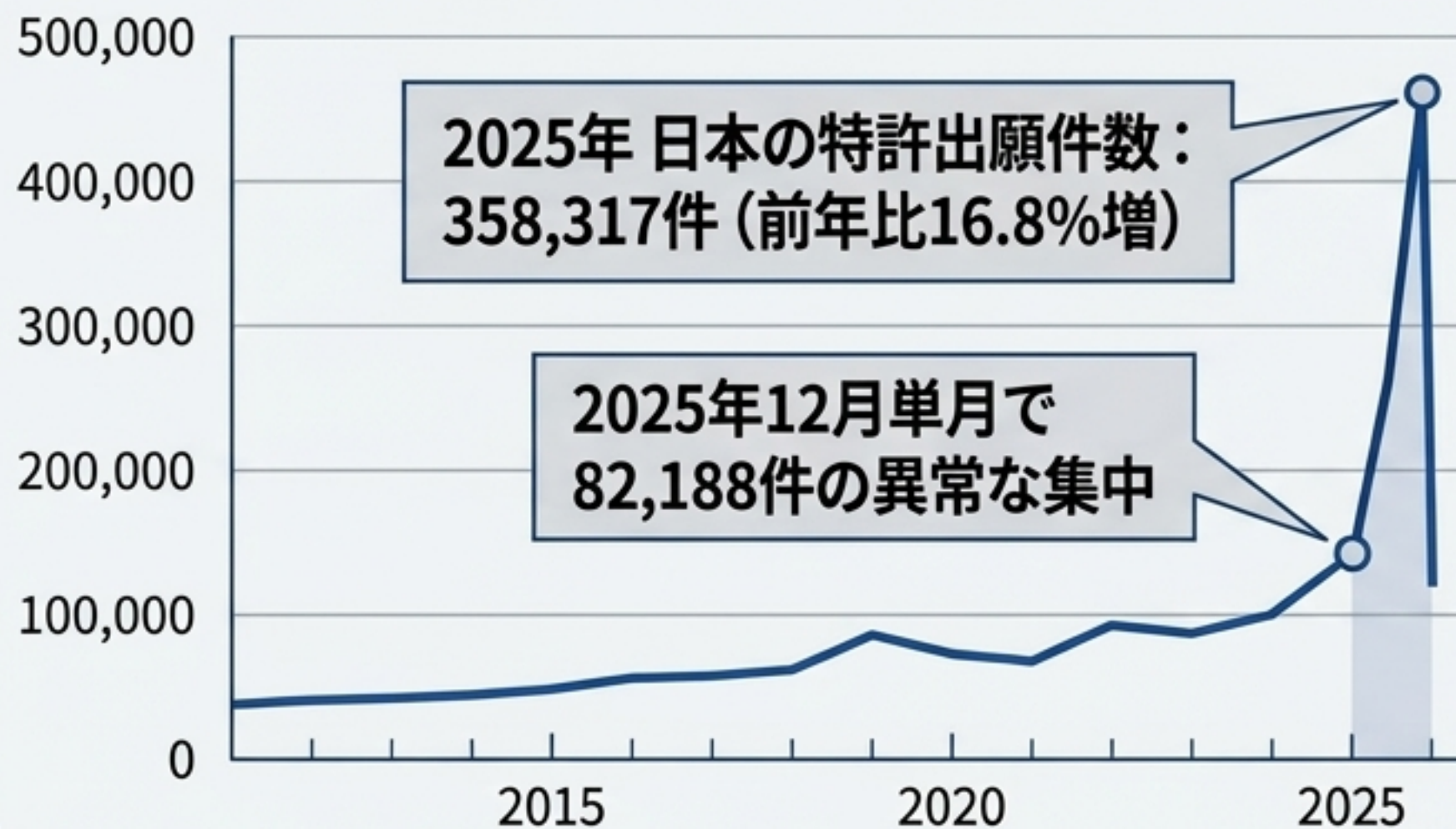
各国特許庁はAIを「審査官支援ツール」として全面実装済み。審査側がAI武装することで、出願側に求められる品質のハードルが急激に上昇している。

審査の網羅性向上による「言い換え特許」の排除



技術的本質を的確に表現した明細書と、広域概念検索に耐えうるクレーム設計（出願前調査）の重要性が相対的に急増する。

出願の量的インフレ：AIによる「大量出願時代」の到来



生成AI自体の特許競争

- 公開特許ファミリー：
2023年 約14,000件
➡ 2025年 37,000件超へ急増
- 異業種（Nvidia, Bosch 等）
の参入

AIで「安く大量に」出願する層と、
AIで「質を高める」層への二極化が進行。

パラダイムシフト：2025年の常識から2027年の必須要件へ

	2025	2027
コア業務	明細書を「作る」	エージェントの出力を「検証・監督する」
ツール戦略	単体UI / 汎用LLM	工程別の特化ツール / API・MCP接続
出願戦略	単独の特許出願	50件規模の戦略的ポートフォリオ設計
調達の焦点	AIの出力品質・生成速度	セキュリティ(SOC 2)・ゼロデータ保持・RAG

競争軸は「単体ツールの性能」から、自社システムへの
「接続性」と「検証体制」へ完全に移行した。

2027年に向けた戦略的青写真(3つの柱)

オペレーション

検索AIから「判断支援エージェント」へ。自走するAPI連携ワークフローの構築。

資産戦略

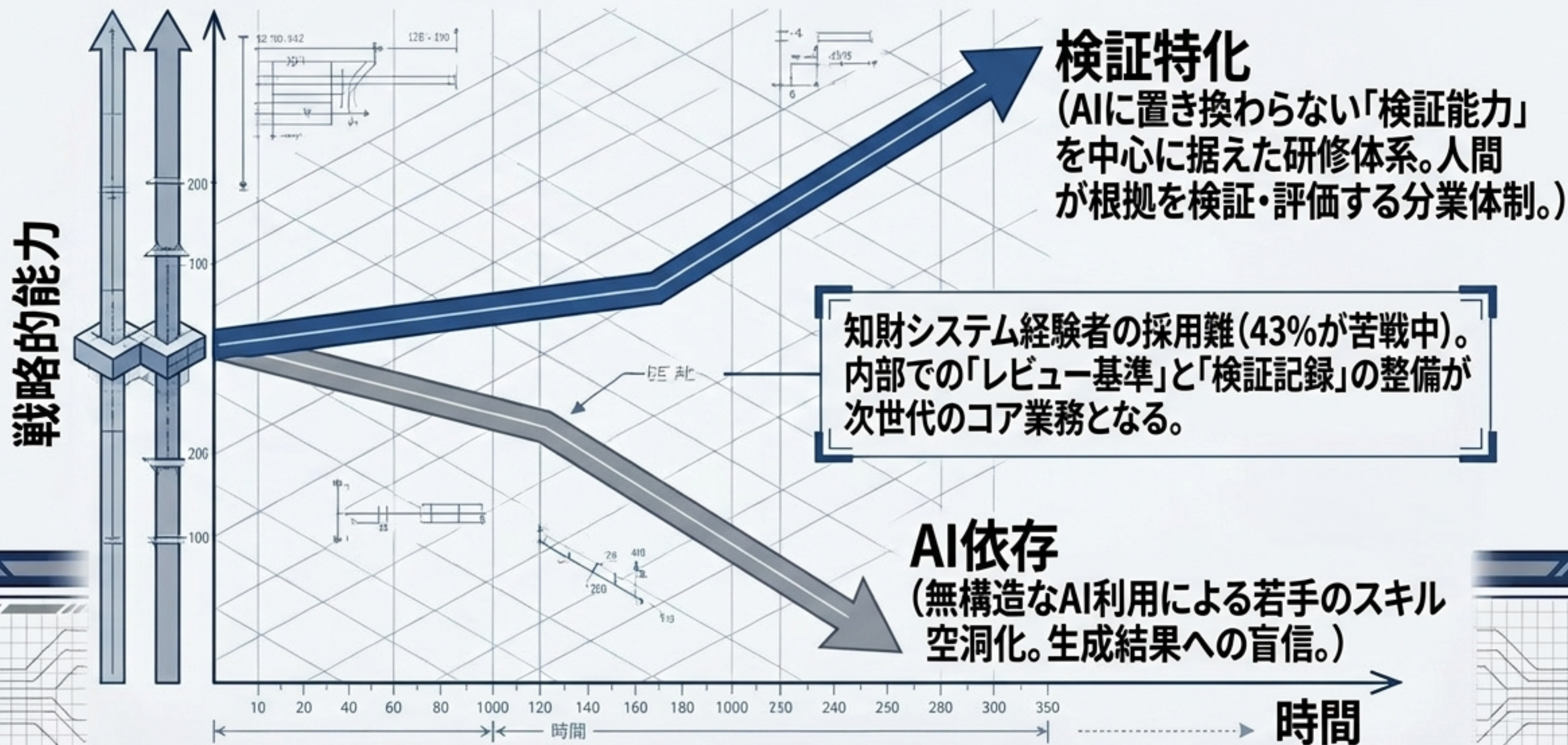
出願件数から特許群設計へ。広域検索にFTOとクレーム構築。

ガバナンス

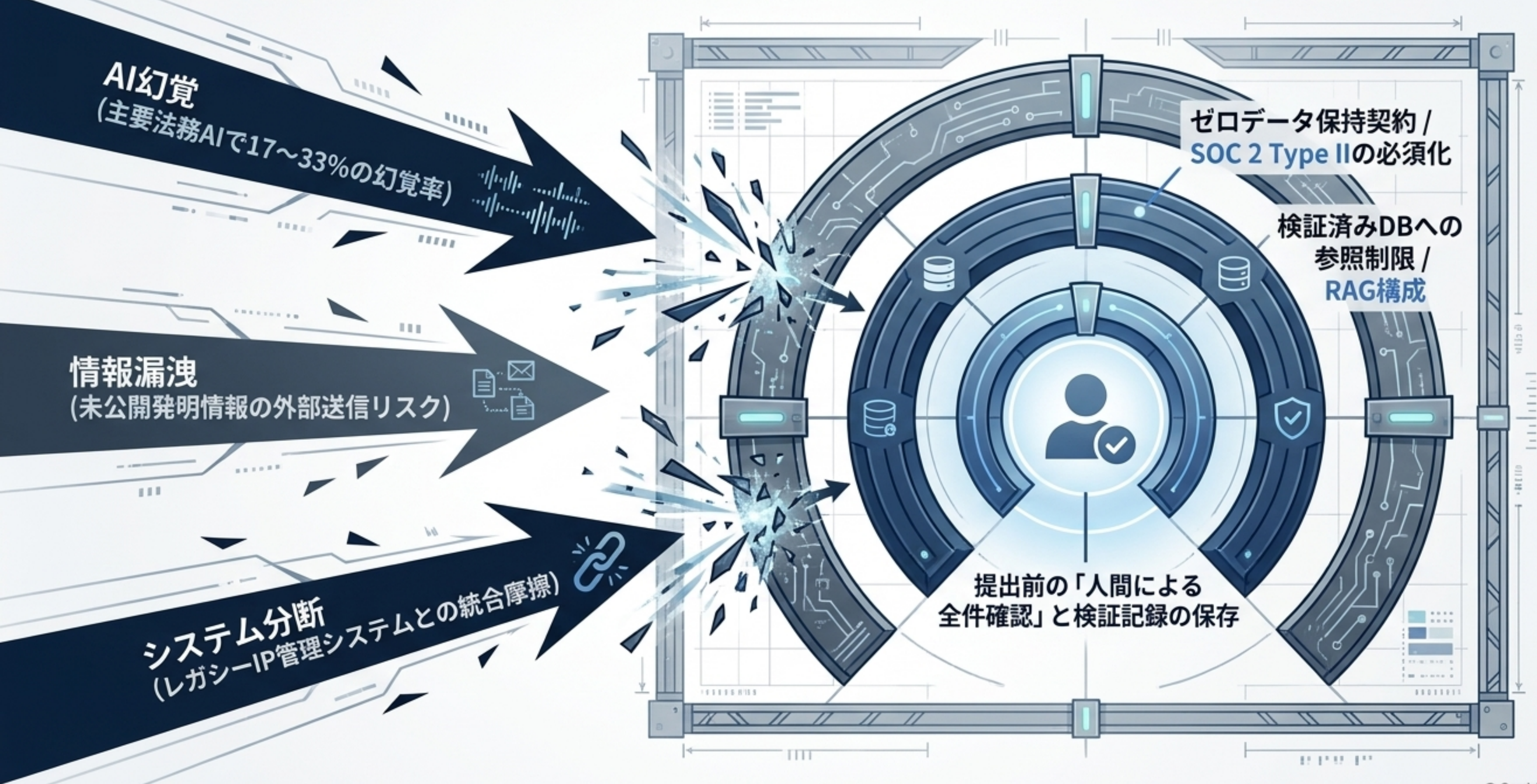
幻覚統制と機密保護。専門特化モデルの導入と閉域環境構築。

戦略の核心は、AIを「単なるツール」から「組織のインフラ」へと昇華させることに在る。

人材の分岐点:「スキルの空洞化」対「戦略的判断力の向上」



脅威レーダーと防御シールド：法的リスクへの対抗策

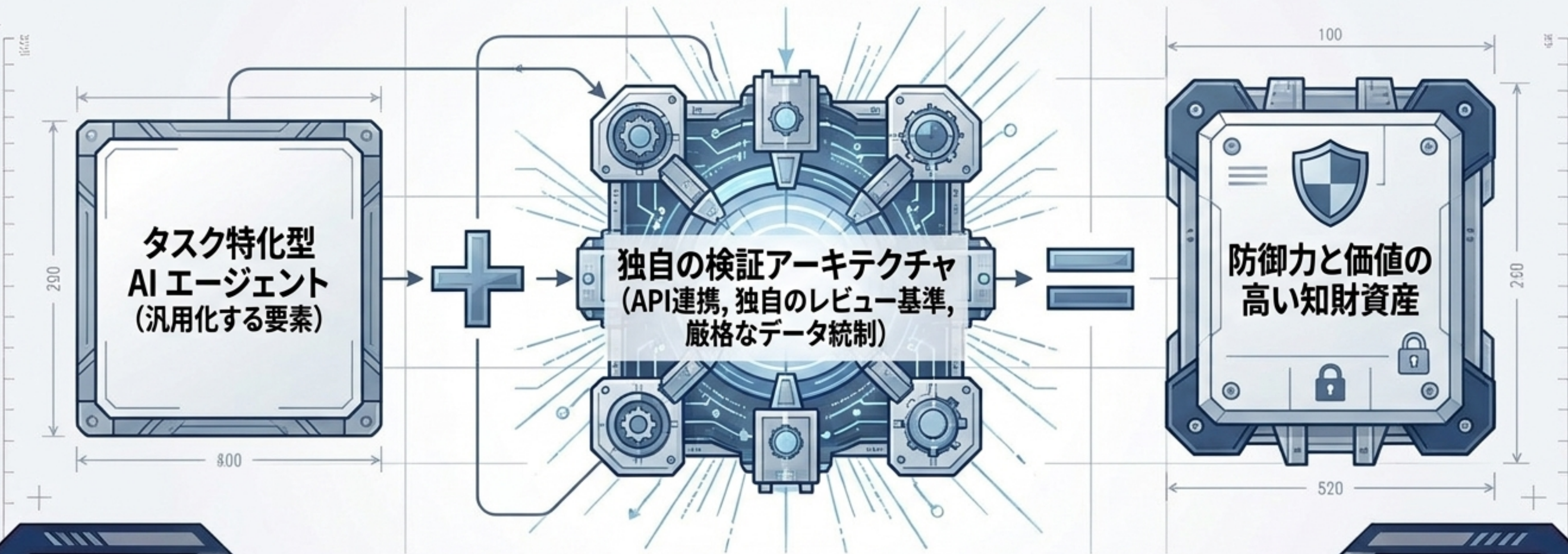


機密性を担保する「二層構成アーキテクチャ」



セキュリティは「売り文句」から「RFPの必須要件」へ。
情報システム部門との合意形成がAI導入速度を決定づける。

2027年の競争優位性：「使うか否か」から「どう検証するか」へ



AIライセンスへの投資だけでは無意味。API接続された検証ワークフロー、社内規程、人間による判断記録の設計力こそが、2027年における企業間の差を生む。

アクションプラン：経営層・知財部門長への提言

脱却すべき指標

- × AIによる「業務効率化率 (%)」の単一追求
- × 汎用AIツールへの無計画なライセンス投資

新たな投資・評価基準

- ✓ 検証体制の構築：効率化ではなく「出力の誤りをいかに確実に検知・記録できるか」を投資判断の根拠とする
- ✓ 閉域環境とAPI連携への投資：セキュリティを満たす特化型AIと、既存知財DBをシームレスに繋ぐインフラ構築
- ✓ 評価指標の転換：処理件数から、特許群の戦略的価値と「検証品質の再現性」へ

2026年は実験の終わり。
強固な「信頼のアーキテクチャ」の構築へ、今すぐ舵を切る。